

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス宙・のぞみ		
○保護者評価実施期間	2025年 1月 20日		2025年 2月 14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21名	(回答者数) 19名
○従業者評価実施期間	2025年 1月 20日		2025年 2月 14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 4名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	TEACCHプログラムを取り入れながら、子ども一人一人に合わせた療育を行っている。	一人ひとり子どもの特性に合わせた活動内容や環境設定を検討し、個別の支援内容や個別のスケジュールを使用している。	・子どもの特性を職員間で共通理解できるようにミーティングや振り返りを必要性に応じて確認する機会を設ける。 ・対面での学習の機会を増やし、児童の自信につながるような支援を行う。
2	運営法人内に児童発達支援センター、相談事業所、放課後等デイサービスがあり、他事業所との交流がある。	・職員研修などで日頃から情報共有を行なっている。 ・合同行事では職員間の交流だけでなく、児童同士の交流も図れている。	・今後も定期的な研修を行い、職員間の交流を持ち、合同行事では児童同士の関わりも継続していきたい。
3			

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	送迎対応がある時間帯で事業所内での支援が手薄になる。	・送迎対応している学校数が多く、送迎エリアも広い。 ・公用車を置いてある駐車場が離れているため、戻す時に時間がかかる。	・在籍校によって受け入れ対応の判断をする。 ・効率よく送迎対応ができるような送迎ルートの確認、配車についても考える。
2	・事業所内で運動できるスペースがない。 ・事業所内が狭い。	・室内での活動に限りがある。 ・体を動かしての活動が難しい。 ・フロア中央に柱があったり、スペースを衝立で区切ったりとしているため、広いスペースは確保が難しい。	・活動内容を工夫したり、事業所外を活用したりと引き続き検討していく。 ・公園や室内遊具場などを活用しながら、児童が過ごしやすい環境を整えていく。
3			